

閉会の辞 Ts. プレブスレン モンゴル日本語教師会副会長



皆

様、二日間お疲れ様でした。今年のシンポジウムには二つの特徴がありました。一つはモンゴルにおける日本語教育 40 周年記念の年に行われていること、もう一つは新たな教科書ができあがったことです。

教育の中心は人であり、学習者です。それを実現するために行ってきた活動が形になりつつあります。モンゴル人学習者の文化・性格の特徴を取り入れた教科書ができあがったことは、40年という歳月の間にモンゴルにおける日本語教育がどれほど発展し、また教師やスタッフがどれほど成長してきたかの現れです。非常に誇りに思うとともに、これまで尽力してくださったドルゴル日本語教師会会長に感謝を申し上げます。

また、本当に理想的な教科書とは、どれほどの手間がかかるかということがわかりました。『みんなの日本語』一辺倒だった時代が歴史になりつつあります。教科書作成にご協力くださった皆様に、モンゴル日本語教師会を代表して、お礼を申し上げます。

しかし、まだ道半ばです。どんなにいい教科書があっても、教え方が変わらなければ意味がありません。今回のシンポジウムで勉強したことも含め、よく考え、学習者を発見・気づきへと案内できるよう、引き続き力を合わせて邁進していきましょう。

最後になりましたが、お忙しい中はお越しくございました嶋田先生に、心より感謝を申し上げます。発表者の皆様、ご協力くださった皆様、そしてご来場の皆様、ありがとうございました。

